見て、読む。s-house

On looking, on reading. s-house

山本　莉香

周辺環境に呼応し異なる顔を持つ立面

西

南西

南

東

北

旅に出て日記を書き、いつしかそれを振り返った時に、様々な記憶や気づきを思い出す。そのように、街中に見るささいな現れを読み解き、再び建築へと落とし込む。これは、私が生きてきた横浜の川和町の街を「見て、読む」ことから考えた、そんな建築の提案である。

本設計は、私がアルバイトでお世話になっているピザ屋を営む店長がクライアントであり、住居兼店舗の新築である。伺った要望は２つ、ピザ屋と住居をあわせ持つことと、地域の農家の方に開かれた場所をもつことであった。

川和町という街を見ると、矛盾したコンテクストが、衝突したり、調整されることで形成されているように思う。例えば、かつて神社やお寺によって築かれた街の構造と新しい地下鉄の高架橋、接客の前庭を持つ民家と新興住宅地など、時代の流れに伴い様々な対立関係を持った要素にあふれている。

そのような様々なコンテクストを、全体の骨格を決定する強い要素とするのではなく、むしろ内部の居場所や、場所と場所の関係性を紐づける手がかりとして扱う。それらを「見る」ことで一つにし、色々な要素が複雑に入り組んだ建築を成り立たせた。

来訪者は、バラバラとした居場所から、窓を「見る」ことで意識が重ね合わされ、そこに切り取られた人の仕草や風景を「読みこもうとする」ことで、この建物での様々な体験や違和感が、街のコンテクストであることに、気づかされるかもしれない。

振り返ってみると、私がやってきたことは、未来に向けて街の痕跡を一つの建物へと記述することを意図していたようにも思う。あたかもずっと街を見ていたかのようなこの建物を、見て、読むことで、見えない街の表情と関わり続ける、そんな住まいになったのではないだろうか。

出典「On Reading」Andre Kertesz

プロジェクト概要　*新築 店舗兼住居*

用途	店舗 兼 住居	延床面積	289.25 ㎡
施主	アルバイト先のピザ屋の店長	1 階床面積	138.86 ㎡
家族構成	1 人（2 人分の想定）	2 階床面積	150.39 ㎡
敷地	神奈川県 横浜市 都筑区 川和町	容積率	81.66% / 87.88%
階数	地上 2 階	構法	在来木造軸組構法
敷地面積	354.18 ㎡	地域	第一種住居地域
建築面積	158.00 ㎡	地区	第 4 種高度地区
建蔽率	44.61%　/ 60%	駐車台数	0 台

手法 目標 理想

手法　周辺環境から拾い集めた痕跡を、未来に向けたデザインに活用すること

目標　川和町は、歴史がありながら再開発のタイミング新陳代謝と歴史継承という矛盾した欲求を、両方実現

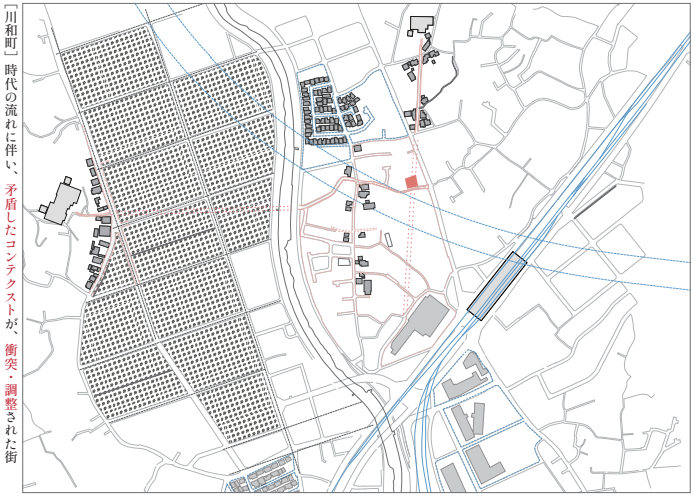
理想　痕跡となって未来に引き継がれる建物になること

店長から伺った要望

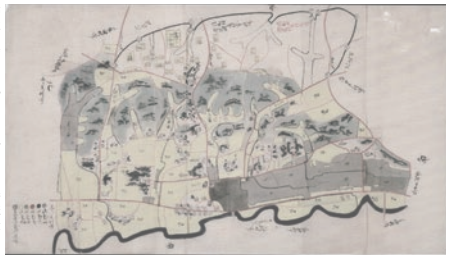
ピザ屋 と 住居 をあわせ持つ	地域の農家に 開かれた場を持つ

ささやかな街の痕跡

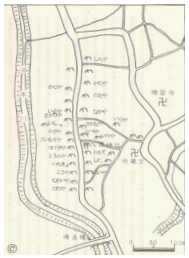
「川和町」時代の流れに伴い、矛盾したコンテクストが、衝突・調整された街



神社や寺を中心としたかつての街構造



宿場町として市を開き接客空間を持つ



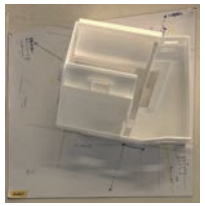
制作背景　*「未来に参照可能な建築」*

街の痕跡の「直接表現」と「間接表現」の両立を求めたスタディ過程

直接表現　全体の骨格を決める強い要素として扱う

10/18

鳥居をそのままオブジェクトとして象徴的に配置



10/25

軸線を、人の立ち入れない細いスリットの空間に

▷

間接表現　場所の関係性を紐づける手がかりとして扱う

12/13

周辺環境から受けた雁行や、軸線による影響を、壁の傾きや動線など部分部分に落とし込んだ

▷

直接表現＋間接表現

1/24

屋根組の検討において、棟の方向で直接的に街構造を取入れ、内部とズレた空間体験をつくる

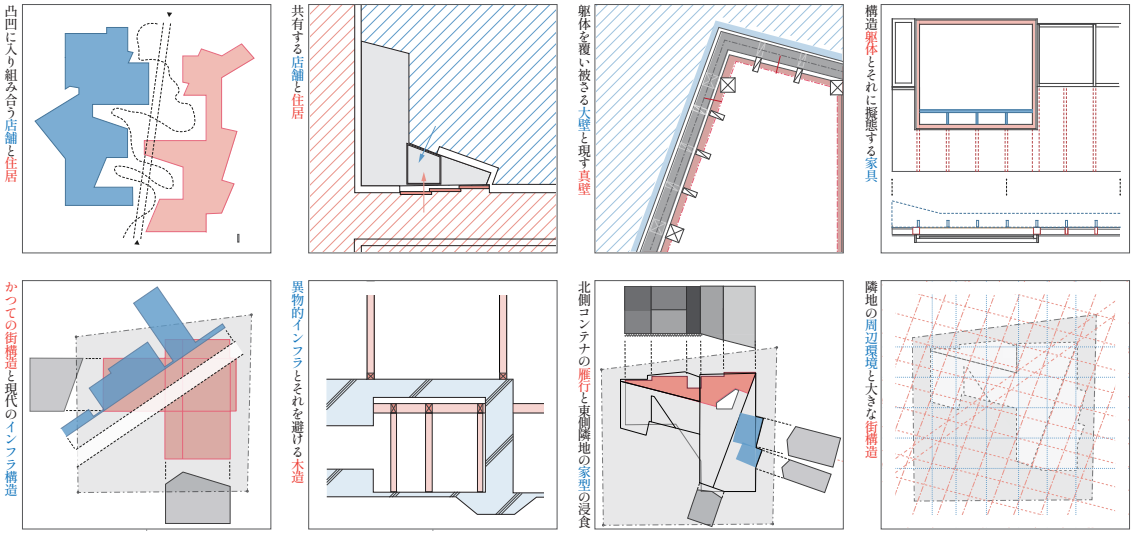
私たちは、ものや何かの現れを見て、読み、解釈する。それは無意識のうちに行われ、普通のことのように感じられるが、これは、ものに意味を見出す創造的な行為である。この「見て、読むこと」をどれだけ設計に活かせるだろうか、そんなことに興味を持ったことから修士設計に取り組み始めた。

私は、ものごとを見て、参照した時、そこに解釈の幅が生まれる状態を目指したいと思った。それは、建築を訪れた人が直接的に正確に何かを思い出すことではなく、間接的にそれを感じ取ったり、あるいは別の何かを想起してしまうような、曖昧な状態である。

後から振り返った時に、読み返したときに、何か違和感を感じて考えてしまうような、そのような未来に参照可能な建築を目指した、私の小さな挑戦の一つとしての作品である。

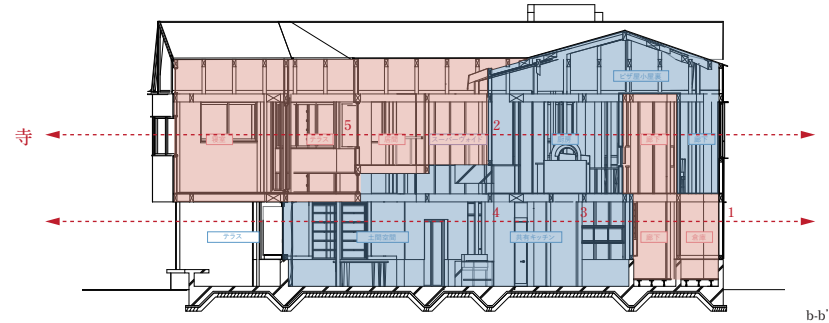
手法1　対立するものの衝突・調整

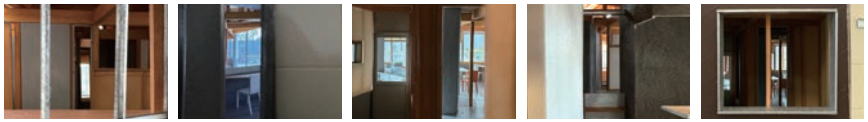
川和町を見ると、矛盾したコンテクストが衝突・調整されることで形成されており、時代の流れに伴い様々な対立関係を持った要素に溢れている。この建物では、街の痕跡や建築の要素による対立関係を抱え込むことで、内部の居場所や、場所と場所の関係性が紐づいていく。



手法2　「見る」ことによる、かつての街構造の追体験

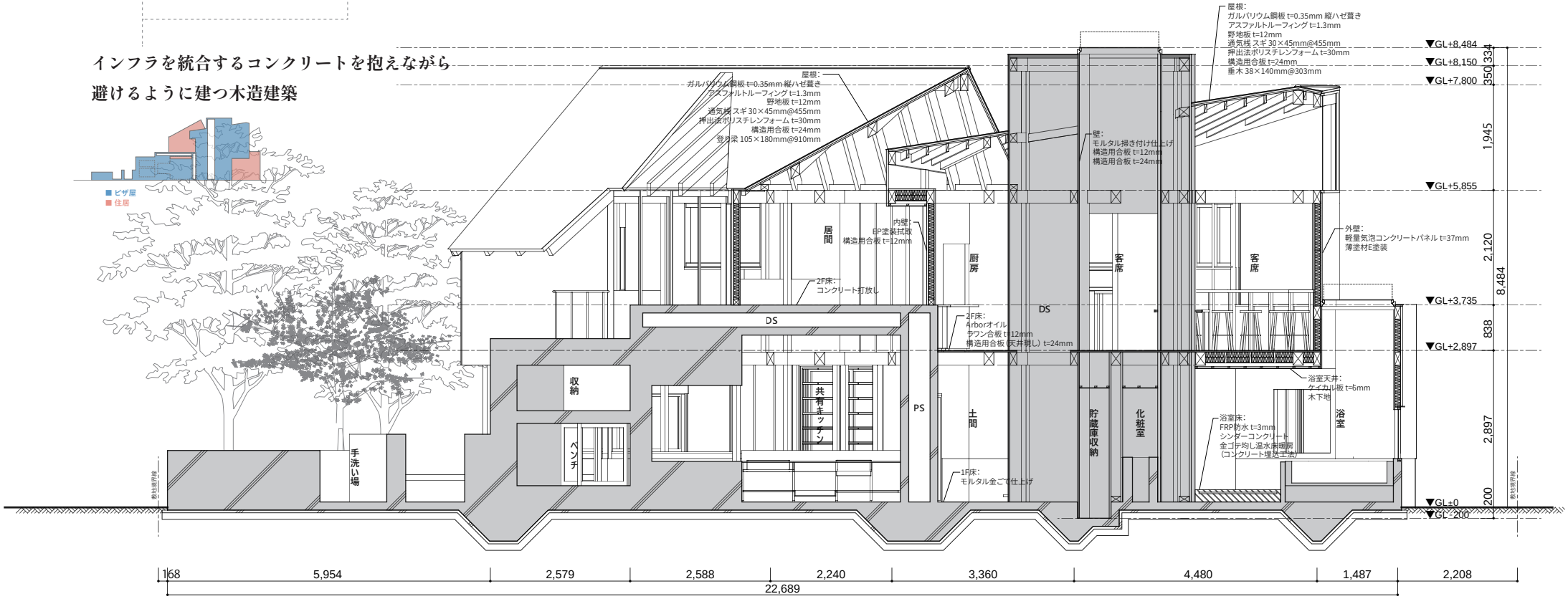
バラバラとした居場所は窓を「見る」ことで一つになり、色々な要素が複雑に入り組んだ建物を成り立たせた。一直線に視線が抜ける先には、かつて街の中心であった神社や寺が存在し、そこに意識を集中させることこそが、かつての街構造の追体験となる。



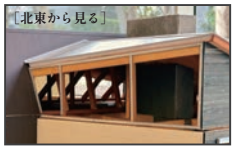


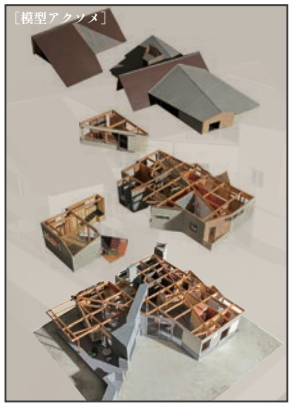
5　4　3　2　1

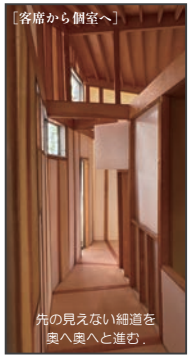
インフラを統合するコンクリートを抱えながら
避けるように建つ木造建築



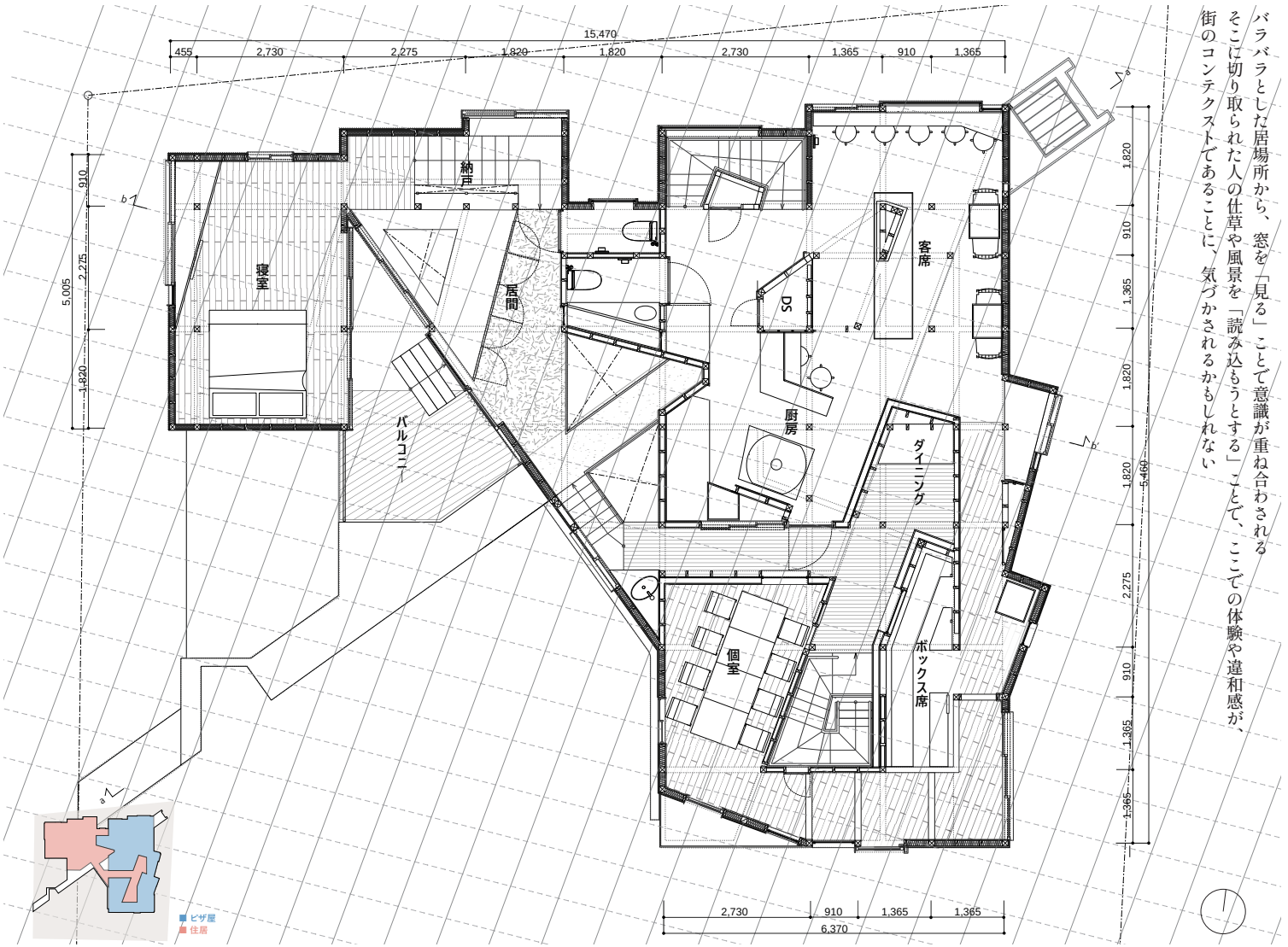
a-a' 断面図　縮尺 1/50



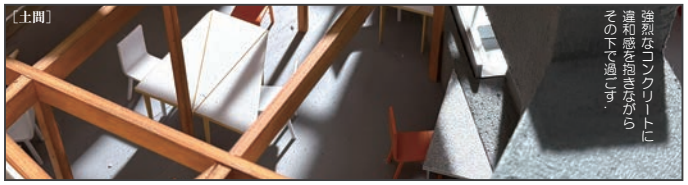




バラバラとした居場所から、窓を「見る」ことで意識が重ね合わされる
そこに切り取られた人の仕草や風景を「読み込もうとする」ことで、ここでの体験や違和感が、
街のコンテクストであることに、気づかされるかもしれない



2F 平面図　縮尺 1/60

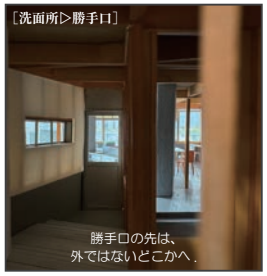

[土間]
強烈なコンクリートに
違和感を抱きながら
その下で過ごす.

[浴室]
反対側では、住まいのお風呂場や洗面所の生活が重なる.

[浴室]
上から光が.
正面には異物が.

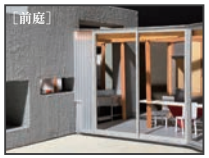
[浴室]

[共有キッチン▷勝手口]
開くことの無い扉が、その奥にもまた戸.

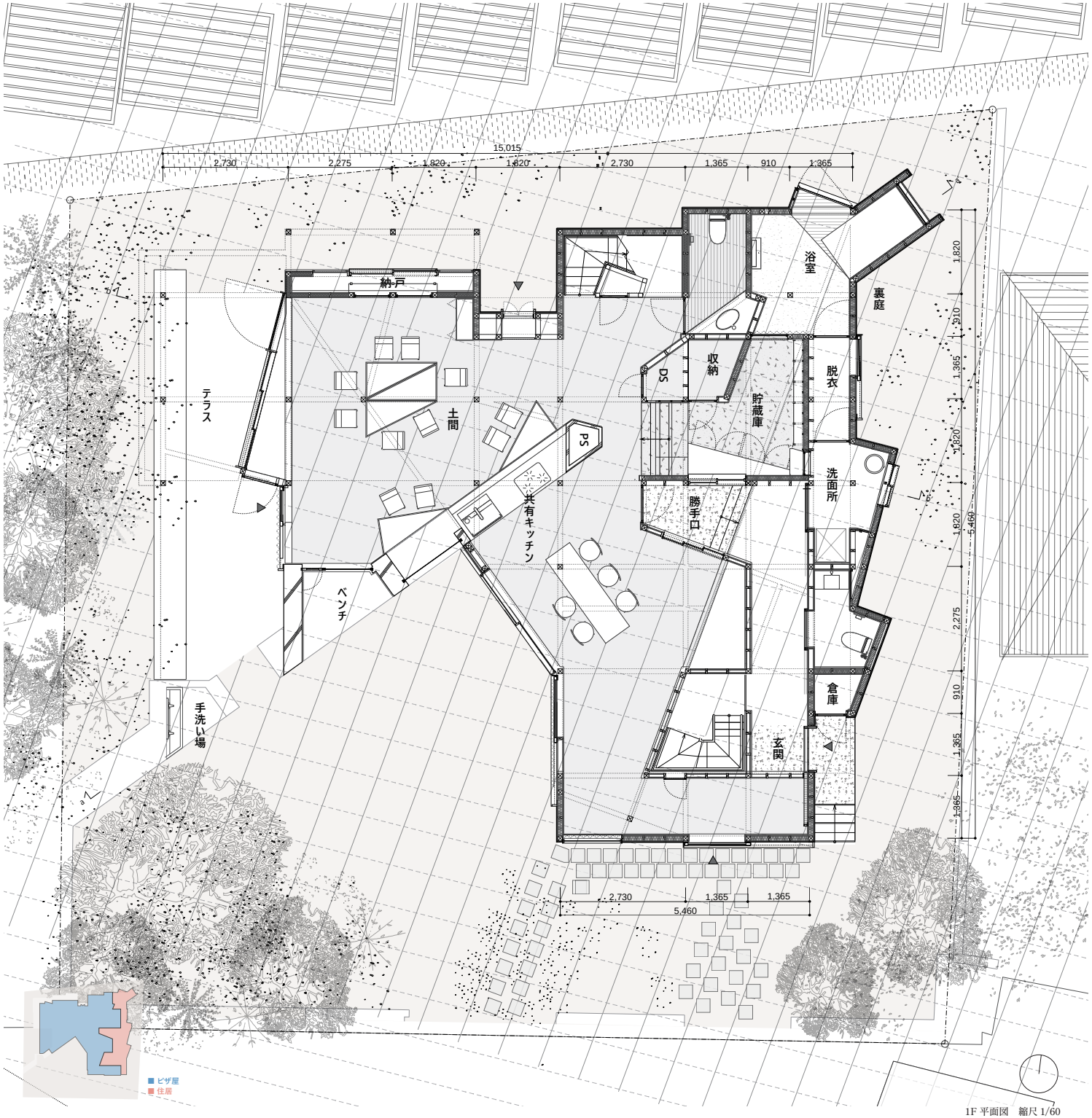

[洗面所▷勝手口]
勝手口の先は、
外ではないどこかへ.

[貯蔵庫]
ふとした窓一枚で、その奥に何か部屋があることが分かるが
行くことはできない.

[共有キッチン]
ふと光が落ちてくる.上には２階にあるはずのレストランではなく
別の目的の人がいることが感じられる.


[前庭]

[共有キッチン]
目があちこちの窓に写われる.


15,015
2,730
2,275
1,820
1,820
2,730
1,365
910
1,365
納戸
テラス
土間
PS
共有キッチン
ベンチ
手洗い場
DS
収納
貯蔵庫
浴室
裏庭
脱衣
洗面所
勝手口
倉庫
玄関
1,820
910
1,365
1,820
1,820
2,275
910
1,365
1,365
5,460
2,730
1,365
1,365
5,460
ビザ屋
住居

1F 平面図　縮尺 1/60